

インドアクライミングの危険性について

以下は当施設の利用にあたっての危険性と、それを回避するために必要な事項です。

記載事項はあくまでも主要な例であって全てを網羅しているものではありません。

クライミングの危険性とその回避方法を把握した上での施設利用をお願いします。

ご不明な点はスタッフまでお尋ねください。

施設利用にあたっての主な危険

① 落下

当施設利用にあたって避けられない要素です。

落下によって壁・ホールド・他者との激突、マット外への着地、着地失敗などが発生して、**負傷・後遺障害・死亡**といった事態が発生する可能性があります。

② ホールドの回転、破損

ホールドは**破損や回転の可能性**があります。

設備管理には万全を心がけていますが、**その構造や性質上 100%の防止は保証できません。**

③ 設備の誤った利用

クライミングウォールに限らず、施設内の設備や用具（特にトレーニング器具）は**利用方法を誤ると非常に危険**です。必ず正しい知識の下で利用してください。

危険回避のための主な注意事項

① マットについて

▽ マットの上は、**いつ、どこから人が落ちてくるかわからない危険な場所**です

▽ トライする時以外は上がらないで下さい。

▽ 休憩の際にマットに座らないでください。

② トライについて

▽ 隣のクライマーとの距離を充分に開けて、同時に落ちた時も衝突しないようにしてください。

▽ 上にいる人が優先となります。他の人が上にいる時は速やかにトライを中止して安全なところに退避してください。

▽ 人と人がぶつかる事故は、原則的に下にいた人の責任になります。

▽ 無理なトライでケガや故障をしないようにしてください。

③ ホールド、壁について

▽ 壁のボルト穴に指を入れないでください。

▽ 壁の上端や天井の鉄骨などを掴まないでください。

④ 落下について

▽ マットは着地を補助する以上の機能はありません。

▽ マットに落下しても、着地に失敗するとケガの原因となります。

▽ 飛び降りるときには、可能な限りクライムダウンをして落下距離を減らしてください。

その他にも思わぬ事故が発生する可能性があります。

クライミングエリア内では常に危険を予測し、回避できるように心掛けてください。